

特集

「五味」

「やるべきこと」「やれること」



地球破壊、資源のむだづかいをいけませんか。必要なから、あるいは欲しくて買った品物です。その物を買ったときの気持ちを思い出してください。利用価値がなくなった。きらいになった。そんな理由で捨てられてしまう物の気持ちを考えてみてください。一つの品物ができるまでに費やされた資源・労力・製造コスト。これらがむだになってしまわないようにもう一度、いらなくなった物でも一つの味(利用方法)だけでなく、その物の持つ利用価値をいろいろ味わってください。

人口増加を上回る ごみの排出量

ごみ減量のため、市では皆さんの協力をいただき、いろいろな取り組みに努力しているところですが、ごみの量は増え続けています。市のごみ排出量を見ると、昭和61年度の排出量は合計3万8千922tでしたが、平成7年度になると5万2千77tと収集車(積載量4t)で約1万3千台分、10年間で1.34倍に増加しています。これに比べて人口は、昭和61年度14万6千482人、平成7年度16万3千110人であり、人口の伸びは1.11倍とごみの排出量に比べ、低い値になっています。また、一人1日当たりのごみ排出量(図1参照)を比べると、昭和61年

度は727.98gで、平成7年度では874.73gとなり、1.2倍の伸びとなり、一人当たりのごみ排出量は確実に増加しているのです。

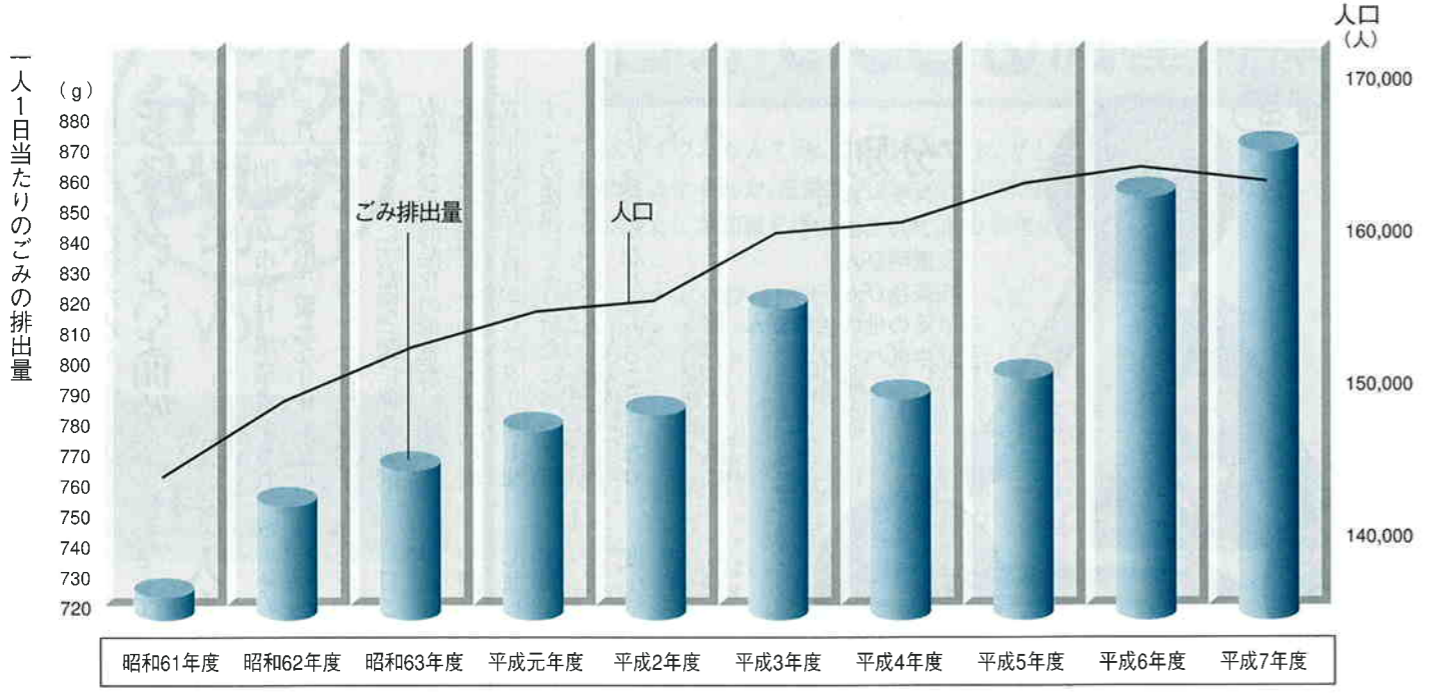
ごみの中には 資源がいっぱい

どのようなものが、ごみとして多く出されているのか、平成7年度ごみ総排出量5万2千77tの内訳(図2参照)をみると、生ごみや紙などの燃えるごみが4万3千425tと多く、全体の83.4%を占めています。次に多いのが、ガラス、せともの、金属類やプラスチック類などの燃えないごみ4千328tで、全体の8.3%。鉄、アルミニウム製品や空きびんなどの資源ごみ3千712tで、全体の7.1%。大型家具、自転車、50cc

資源を生かす リサイクル

限りある資源を大切に使い、かけがえない環境を守るために、資源の循環に配慮した地球にやさしい取り組みが大切です。そのためには、リサイクル活動が決め手です。集団回収、生ごみのたい肥化、空き缶、空きびんの回収、紙パックやトレーの回

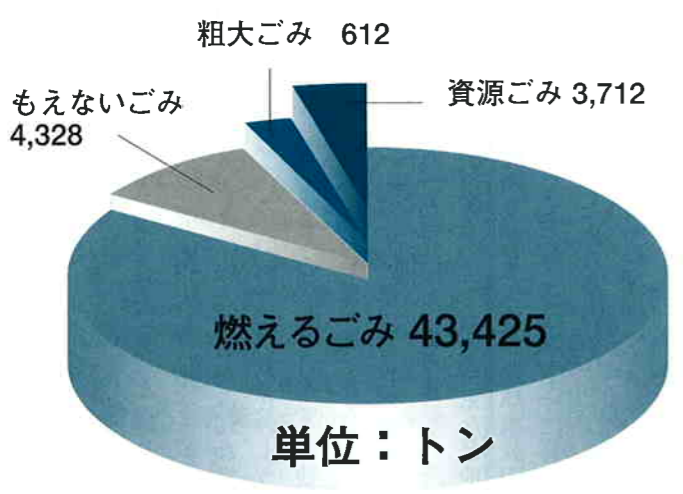
図1 一人1日当たりのごみの排出量と人口の推移



※平成7年度の図1・2の数値は見込みの数値です

図2 ごみの種類

平成7年度ごみ処理総量52,077トンの内訳



収など、さまざまな活動が実施されています。そのようななか、市では分別の徹底、資源化を促進するため、7月1日から「ごみ袋を変更(燃えるごみは白色半透明袋、燃えないごみは無色透明袋)します。また、市の施策に協力をお願いします。ごみの減量と資源化を今まで以上に促進するため、地域に密着した活動を行っていただく「廃棄物減量等推進員」を委嘱します。さらに、不用品の再利用を促進するため、リサイクルマーケットさやま実行委員会を設立し、定期的にリサイクルマーケットを開催します。特に多い紙ごみの資源化を推進するため、市内の一部地域を対象とした古紙・古布の試行収集や分別す

「五味」しまじょう

れば貴重な資源になることを紹介した「ごみ減量啓発ビデオ」の制作と貸し出しなど、資源を活かす決め手となるリサイクルのための新たな取り組みを積極的に展開してまいります。今までの集団回収補助制度などにあわせて、これからの市の事業にご理解ご協力ください。

さて、ここで「五味」を味わってみましょう。

「ぼくは、ジュースを入れる容器としてみんなの生活に役立っているよ。でもそのほかにも、もつと役に立つのには……」ぼやいているのはペットボトルくん。何に役立っているのか聞いてみると「まず本来の容器としての役割。そしてみんなに楽しめるペットボトルロケットなどのおもちゃ。それから農家のかたが大助かりの農業用もぐら撃退機。アメリカの会社ではぼくたちをたくさん集めて、フリースという暖かい洋服を作っているし、装飾されてお花を生ける花器になっている仲間もいるよ。」と、こんな具合です。このように一つの物が五つの味付けで活躍できるのです。

昨今ごみ戦争とまで言われる状況ですが、これからは皆さんのアイデアで物をたくさんさんの味付けで味わうという意味の「五味」にしていきませんか。あなたはいくつの味付けで利用できるでしょうか。「物」の味付け上手な消費者になりましょう。